

エネルギーキャリア推進委員会（第3回）議事要旨

1. 日 時 平成27年6月3日（水） 10:00～12:00

2. 場 所 中央合同庁舎8号館6階 623会議室

3. 出席者：（敬称略）

<総合科学技術・イノベーション会議>

久間 和生 常勤議員、SIP ガバニングボード議長

<議長、プログラムディレクター>

村木 茂 東京ガス株式会社 取締役常勤顧問

<サブプログラムディレクター>

塩沢 文朗 住友化学株式会社 理事 気候変動対応推進室 部長

秋鹿 研一 放送大学 客員教授

<外部有識者>

相澤 益男 (独) 科学技術振興機構 顧問

河合 大洋 トヨタ自動車株式会社 東京技術部 担当課長 (代理：伊藤 大岳)

後藤 新一 (独) 産業技術総合研究所 客員研究員

斎藤 健一郎 J X 日鉱日石エネルギー株式会社 中央技術研究所 上席フェロー

江口 浩一 京都大学 工学研究科 物質エネルギー化学専攻 教授

<関係省庁>

鳥枝 浩彰 消防庁 危険物保安室 課長補佐

原 克彦 文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課長

日原 正視 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部

燃料電池推進室 室長補佐

渡邊 昇治 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課長

村山 昌平 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課 調整官

大谷 雅実 国土交通省 海事局 海洋・環境政策課長

<関係管理法人>

大平 英二 (独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 新エネルギー部

燃料電池・水素グループ 主任研究員

<管理法人>

古賀 明嗣 (独) 科学技術振興機構 環境エネルギー研究開発推進部 部長

篠崎 資志 (独) 科学技術振興機構 環境エネルギー研究開発推進部 参事役

宮崎 進 (独) 科学技術振興機構 環境エネルギー研究開発推進部 技術主幹

<事務局>

松本 英三 内閣府 科学技術・イノベーション担当

中島 英彰 内閣府 科学技術・イノベーション担当

池見 明紀 内閣府 科学技術・イノベーション担当

三宅 葵 内閣府 科学技術・イノベーション担当

4. 議題

1. 平成 26 年度年度評価結果について
2. S I P エネルギーキャリア研究開発計画書について
3. 研究開発の進捗状況について【非公開】
4. 水素関連技術実証の検討状況について【非公開】

5. 配付資料

- 資料 1－1 平成 26 年度評価結果(エネルギーキャリア部分抜粋)
資料 1－2 平成 27 年度戦略的イノベーション創造プログラム (S I P) の実施方針
資料 2 S I P エネルギーキャリア研究開発計画
資料 3－1 研究の進捗状況 概略【非公開】
資料 3－2 研究の進捗状況に関する説明資料【非公開】
資料 4 水素関連技術実証の検討状況【非公開】

参考資料 1 S I P エネルギーキャリア研究開発計画書(平成 26 年度)(公開版)

参考資料 2 S I P エネルギーキャリア研究開発計画書(平成 27 年度)(非公開版)

6. 議事要旨

1. 平成 26 年度年度評価結果について(議題 1)
 - ・ 資料 1－1, 2 に基づき、平成 26 年度年度評価結果について事務局より説明
 - ・ 以下の通り質疑・コメントがあった。
 - 追加配分となるような予算の使い方について考え方を聞きたい。
→優先順位をつけて今年度中に加速できるように整理している。再配分の時期によっては年度内に間に合わないこともある。
2. S I P エネルギーキャリア研究開発計画書について(議題 2)
 - ・ 資料 2 に基づき、平成 26 年度から 27 年度の体制上の変更点を事務局より説明
 - ・ 以下の通り質疑・コメントがあった。
 - SIP2 年目の中間評価にあたり、出口戦略を明確に。運営評価委員にて PDCA を回していく。プログラム会議 6/1 開催し今年度の計画を承認いただいた。H2 技術検討会は 6/8 が最後になるが、SIP としての実証の提案をまとめる。戦略策定 WG では、H2 導入シナリオとして発電と ST の 2 つについてコスト評価含めて、3 つのキャリア別にまとめる。6 月末から 7 月初めにまとめて、今後の推進に役立てる。次回推進委員会でシナリオを紹介したい。
 - 5 年後に実用化とは、具体的に何をもってして実用化と言うか？
→2018 年に必ずしも実証に移せるものだけではなく、①将来的には良い技術となるもの
②H2 バリューチェーン以外に役立つものがある。(例：高温集熱→IS で使えば H2 製造/H2 製造ではないスチームタービン発電でも使用可能)
GB にて議論をしたい。
 - H26、H27 ではテーマ数が同じだが、体制の再編は効果的なのか？
→テーマは 1 減 1 増のためテーマ数は変わらないが、連携性が強いものは集約した。
H2 製造と NH3 利用を一緒にしたのは、しなかった場合には実用化したときに製造と利用に齟齬がおきてしまう懸念もあったから。
 - それは、テーマごとに壁があったからではないか、それをもう一歩進めて、連携して研究開発推進計画が進められるよう工夫したか？
→研究開発者を中心にどう進めるか議論しながら進めた。NEDO の H2 関連技術と連携し、

3月にはNEDOとSIPのH2製造にかかわる研究者を集めて議論、情報交換した。
NEDOとの一体化も視野に入れて進めている。

→1年目のチーム編成では、全チーム間の連携をプロセスの面から検討するチームを設けたが、その部分はいまうまく機能しなかった。今回は代わりにバリューチェーンをどうするかなど、外枠から考える委員会体制をSIP内に整えた。さらに、SIPとNEDOのエネルギー全体の整合性をとる連絡会も設けた。

3. 研究開発の進捗状況について（議題3：非公開）

- 資料3-1、資料3-2について説明

4. 水素関連技術実証の検討状況について（議題4：非公開）

- 資料4について説明

以上